優秀賞（岩手県知事賞）

生活を支える水

盛岡市立飯岡中学校
二年　五代儀（いよぎ）　光夏（みなつ）

私は、五年生の時に「カシオペア百キロメートル徒歩の旅」に参加しました。これは、岩手県内の小学生が対象の四泊五日の旅です。浄法寺を出発し、一戸町、九戸村、軽米、そしてゴールが二戸市というルートでした。旅は八月に行われたため、日差しは強く、毎日が真夏日。熱中症を防ぐために、こまめに水分補給をしながら歩きました。また、各休憩ポイントではタオルを水でぬらしたり、首に水をかけてもらったりもしました。周辺の学校のプールに入った時は、とても気持ち良く解放的な気分になり、疲れも少しとれたように感じました。五日間の旅で、初めは余裕をもって歩いていましたが、さすがに三日目、四日目となると、疲れもピークに達していました。

そんな四日目に、最大の難関である折爪岳登山がありました。登山前に、私は湧水を飲みました。その湧水は折爪岳の麓、「岳の湧口」と呼ばれています。「岳の湧口」の周りは、空気がひんやりしていて、水に手をつけると、真夏なのにびっくりするぐらい冷たかったことを覚えています。旅は終盤、連日の最高気温に加え、疲れもピーク。そんな中で飲んだ湧水は、体に染みわたり、山に登る元気をくれるような水でした。今まで飲んだ水の中で最高においしかったです。それまで水をこんなにもおいしいと感じたことはありませんでした。また、湧水を飲んだのは初めてだったので、とても新鮮に感じました。

今振り返ってみると、あの旅は水がなければ完歩できなかったと思います。あんなに水に頼り、なおかつ水のありがたみを実感できたのはあの旅が初めてでした。

そんな経験があったにも関わらず、今の私は大切な事をすっかり忘れてしまっています。風呂では、シャ

ワーを出しっぱなしにし、母に注意されることもしばしば。食器などを洗っていても出しっぱなし、また、学校の蛇口から少々水が出ていても、さほど気にはならなくなってしまっています。「蛇口をひねれば水が出る」そんなあたりまえの感覚にとらわれているのです。

無意識のうちに無駄遣いしている水。普段使っている水道水は、川から水をくみ上げて使われています。そして、川の源流が湧水である所もあります。湧水は、気象条件、そして人の手によって、最悪の場合は枯渇してしまうこともあるそうです。人と自然が上手く共生しなければ、川の汚染が進んだり、水量が減ったりして、しまいには川がなくなってしまいます。私たちが、水を確保するためには、川や湧水を大切にし、守らなければならないのです。

岩手には名水がたくさんあります。いわての名水二十選のほとんどが湧水です。私が飲んだ「岳の湧口」もその中の一つです。また、湧水のうち二種類は、国の名水百選にも選ばれています。岩手に名水が多いのは、自然が豊かで、地域の人に大事にされているからだそうです。

人は、水がなければ生きていくことはできません。三年前の東日本大震災で私達は実感しました。私の家は一週間水が出ず、他からポリタンクに水をくんできて使っていました。食事、洗顔や歯みがき、洗たく、トイレなど家族で少しずつ大事に使っていました。また、風呂は一ヵ月使えず、知り合いの家のお風呂を借りたり、少し離れた銭湯に行ったりしたこともありました。

このように、色々思い返すと、水の大切さを改めて思い知らされます。震災の時に家族と水の少ない生活をしたことや、旅でたくさんのおいしい水にお世話になった事を忘れず、今後は水をもっと大事に使うこと、また、川などの水資源を守るための私に出来る小さな努力を続けていかなければと思います。

(注) 原文のまま浄書しています

優秀賞（岩手県知事賞）

自然からいただいた水とともに

盛岡市立飯岡中学校
二年　熊谷（くまがい）　希（のぞみ）

「ぷはぁ」

溶けてしまいそうなほど暑い中、防具をはずし、すぐさま水筒へと走り込む。水分を口にすると、体に染みわたっていくのが分かる。生き返った心地がする。やっぱり、頑張った後に飲む水はいつも以上に最高だ。私たちは、自然にめぐまれた岩手に暮らし、おいしい水を飲むことができる。それを当然のことだと思っていないだろうか。

二〇一三年の夏。ニュースや新聞で大きく取り上げられたものは、ダムの水不足。全国的にダムの水位が下がっていった。前年はこんな事はなかったと思う。このようになってしまったのは、もしかしたら私達の生活にも原因があるのではないか。ダムの水不足には、大きく分けて二つの理由があるようだ。

一つは、自然の問題だ。気候が最も影響している。雨や雪が降らなければダムの水はなくなってしまう。特に、ダムの水不足の影響が大きかったのは西日本や四国の辺り。七月以降、太平洋高気圧とチベット高気圧（中国方面からの気圧）が強まってきて、西日本を中心に全国的に暑夏となった。高知県では最高気温が四十一度。日本の最高気温を更新した。それほど、晴れの日が多かった。

ところが、四国や東北地方では、台風などの影響で大雨の日が続き、土砂災害等も多く発生した。このように、天候に左右され、降水量が上下すると安定的な水の供給は難しくなってくるのだ。

もう一つは、私達がたくさんの水を使うことによって水不足は起こる。ダムの水不足が大きく取り上げられた時、その現状とともに言われたことは、節水。節水と簡単には言うが、なかなか簡単にはできないものだ。

水を使わなければ、私達は生活できないからだ。

効果的な節水の方法としてよく知られているのは、流しっぱなしにしないことだ。これをするだけでも一人で約六リットル節水できるそうだ。皆に知ってほしいから言っているのではない。実行してほしいから、さけばれているのだ。ただ知っていてもやらないのが人間である。ところが、いざとなった時私達は必死になる。

例えば、二〇一一年三月十一日。私の家では、震災の二日後に水が止まった。かろうじて、一つの蛇口は山から水を汲んでいた。災難は逃れた。その後、ライフラインが復旧してから世間では、節水・節電をするように口酸っぱく言われた。その時は必死になって心がけた。しかし、節水・節電の意識は日に日に薄れていった。

言われてからやる、では遅い。必死にならずに普段から心がけていく。あの時のような災害が起こっても、これからの努力の積み重ねが、少しでもよい生活に導いてくれるかもしれない。

そして、自然を守ることと同じように、私達は水も守るべきだと思う。自分たちの生活に必要不可欠のものなのに、ありがたみを感じていないように思うからだ。私達の生活は、水と関わった生活である。当然と思うのではなく、「水＝命」ともいえる私達人間が、もっと水との暮らし方を考えてみるべきである。

水は無限ではない。自然からいただいた水を、もっと大切に使うために、様々の視点から見てよりよい暮らしをさがしていきたいと思う。

（注）原文のまま浄書しています

優秀賞（岩手県知事賞）

後世に引き継ぐ水

滝沢市立姥屋敷中学校
三年　鈴木（すずき）　綾（あや）

先日、「世界一大きな授業」を受け、世界の子ども達の現状を学びました。私達が毎日、普通に通っている学校に、水くみの手伝いのために行けない子どもが大勢いることを知りました。毎日二十二ｋｇもの水をかつぎ、三ｋｍの道のりを三往復する。蛇口をひねって出た水がそのまま飲める日本では、考えられない現実です。やっとの思いで運んだ水でも雨水や泥水なのです。そのため、下痢やメジナ虫病という病気にまでかかってしまうこともあるそうです。世界の水の現状に心を痛めると共に、日本は恵まれた環境にあるのだと改めて気づいた瞬間でした。

私の住んでいる姥屋敷は雄大な岩手山のふもとにあり、どの家庭でも井戸を掘っていて山の恵みのおいしい水を飲むことができます。「世界一大きな授業」を受け、自分の家はどうしてこの地に根をおろし、井戸を掘ったのか興味が湧き、同居している曾祖父と曾祖母に聞いてみました。

八十九歳の曾祖父と八十七歳の曾祖母は山形県出身で、六十七年前に岩手に来ました。当時は、現在の家から二百ｍ程離れた場所に山の沢水が湧き出ており、その水にほれて家は沢水に近い場所に建てたといいます。スコップやとうぐわを使って土を掘り、井戸を作ってバケツで水を運ぶ生活。蛇口をひねれば簡単に手に入る現代の水とは重みが違うと思いました。何より、水が豊富で常に水がある環境だったため苦労はなかったと話す姿に、いつの時代も「水」というものの存在は大きいのだと感じました。

ところがこの間、地区のゴミ拾いをしてがく然としました。道路や川にペットボトルや缶などのゴミがたくさん見受けられたからです。中には長靴や車のオイル缶などもありました。誰もが走る車をとめて風景を

眺めたり写真を撮ったりしている、岩手山のふもとの緑豊かで美しい私達の地区は、道路をみてみるとゴミが散らばっている地区だったのです。

日本は「水の豊富な国」とも言われていますが、それは豊かな自然に裏うちされたものなのです。世界の気候の中でも珍しい四季があり、梅雨の時期もあります。それらの自然の恵みが木々の根をつたい、土にしみ込み、長い年月をかけて私達に水を届けてくれるのです。蛇口をひねればいとも簡単に大量の水が手に入る現代は、私達に大切な事を忘れさせているのではないでしょうか。

先日、祖母と岩手山登山をしました。初めての挑戦に気分が高まり、元気一杯の私でしたが、五合目を過ぎてから疲れがみえてくるようになりました。その上小雨が降り出し、霧も出てきて、八合目に着いた時には身も心もすっかり渇ききっていました。八合目には評判の水があると以前から聞いていた私は、何よりも先に、湧き水をすくって飲みました。冷たさとおいしさが口一杯に広がり、私ののども潤いました。また、少し体も軽くなり、頂上を目指そうという気力も生まれてきました。それまで朦朧としていた頭も何だかすっきりとしてくると、疲れが一気に吹き飛んでいくのが分かりました。こんなにも水は私達に力を与えてくれるのだと、改めて水の偉大さに気づいた瞬間でした。

普段は気にも留めない水ですが、私達が水から受けている恩恵は計り知れません。何もない土地を切り拓き、それでも清い水が苦労を感じさせなかったと話す曾祖父母の言葉に人間が生きる上で大切なことを教えられました。世界の中でも誇れる水を持つ日本。このことの意味を今一度考えたいと思います。飲める水が苦労なく手に入ることに、感謝の気持ち続け、後世へとつなげていかなければなりません。それが私達の責任だと強く思っています。

（注）原文のまま浄書しています

優秀賞（岩手県知事賞）

命の水

盛岡市立飯岡中学校
三年　丸山（まるやま）　詩乃（しの）

私たちの暮らすこの盛岡市は、東京などの都会よりも、よっぽど恵まれていると私は思う。何より水だ。水がとてもきれいだし、さらにおいしいときている。東京で暮らしている祖母や伯母がたまに盛岡へ来ることがあるのだが、その度に盛岡の水はとてもおいしいと言ってくれる。私も、盛岡の水はおいしいといつも感じている。祖母の言葉を聞くと、盛岡に住んでいて良かったと心から思う。

そんな盛岡の水の中でも、大自然の山の中で息づく天然水は、ずば抜けておいしい。私は時々、父と山へ行く。春には山菜やきのこなどを採ってくることがある。緑濃い美しい山中を歩き、一息つきたくなると、渓流の透明な沢の水をすくって飲んだりする。その水は普段飲んでいる水道水とは比べものにならないおいしさだ。はるかにさわやかで、一口飲んだだけでも体のすみずみまで行き渡る感じがする。人の手が加えられていない自然の土壌の力でこんなに澄んだおいしい水があるということに心底驚かされる。最近は、色々な種類の天然水がペットボトルに入ってたくさん売られているが、自分の手ですくって飲む水の味わいを知る人はどれだけいるだろうか。

水は、ただ単においしいというばかりではない。私たちに美しい風景を与えてくれる。私の住む飯岡地区は、その漢字の示す通り昔からの田園地帯だ。校舎のまわりも、一面田んぼに囲まれている。この田んぼは一年を通して私たちに様々な風景を見せてくれる。ちょうど今頃から、水をたたえた田んぼに苗が植えられていく。田植えの始まる季節である。まだ小さな苗が植わった田んぼは、春にはきれいな夕焼けを水面に映し出す。蛙など水辺の生物には恰好の棲み場所だ。夏に降る突然の夕立、その雫の一つ一つを受け止めて波

紋に変える。収穫の秋には稲や麦を豊富に実らせ、冬は積もった雪の下で静かに春への支度を始める。この様に田んぼは、季節の情景を美しく描いている。

しかし近年、都市化や開発などの動きが活発になってきている。加えて、自然災害も多く発生している。盛岡でも、今まで田んぼだった所にいつの間にか大型店が建ったり、たくさんの住宅が立ち並んだりしている。私たちのまわりにある自然が人の手によって開発されてきたことは、すなわち生体環境が崩壊するということだ。命の循環が狂うという事だから、人間にも当然悪影響が及ぶだろう。田んぼが消失すれば、主食の米や小麦生産が減るだけではない。私たちを和ませてくれた生き物やそれを育む風景も姿を消すことだ。もしかするとそれだけに留まらず、環境の悪化がさらに進んでいるかもしれない。又、大雨による洪水も日本で増えてきている。昨年は、県内でも土砂災害などの大きな被害が出た。私の地区でも道路が水で溢れ通行できなくなった所があった。

「水を大切に」「自然を守ろう」などというポスターをときどき目にすることがある。しかし私は、本当の危機感を持っていない人がたくさんいるように思う。私たちは、水から多くの恵みを受けて生きている。一方で、洪水などの水がもたらす災害が起こると、どうする事もできない現状もある。人間がいきているという事は、地球も生きているということだ。人が自らの利益や発展を求めてきた事で水資源が少なくなっているのは間違いない。だが、限りある水資源をどう使っていくか、水と共にどう生きていくかという事がこれからの日本には必要だと考える。

まず、この盛岡の水資源や水のある風景を後世に残していく為に、私たちにできる事はないだろうか。百年、二百年先に水が人間に与えてくれる豊かな味わいや感動を残していきたい。人間のパートナーは水なのだから。

（注）原文のまま浄書しています

佳作（岩手県知事賞）

水の大切さ

盛岡市立飯岡中学校
二年　石田（いしだ）　櫻（さくら）

私は今まで蛇口をひねれば水が出てくるのは当たり前だと思っていました。

三年前の東日本大震災のとき、私は仙台市内の小学校に通っていました。地震で家の中はぐちゃぐちゃ。水、電気、ガス全てが止まってしまいました。家族みんなで学校の体育館に避難しました。体育館には千人くらいの人たちが避難していました。近所の人たちだけではなく、様々な地域の人たちが集まっていました。おにぎりがくばられましたが、女性や子ども優先で、すべての人にいきわたることができませんでした。私は、地震が起こったことはわかっていても他の地域がどうなっているのかわかりませんでした。はじめて携帯のテレビで自分の住む仙台市でも津波の被害があったことを知りました。自分の住んでいるところの近くまで津波がきていたことを知り、とてもびっくりしました。また、避難所は電気がつかないため体育館が真っ暗になっていて、よけい不安になりました。

そして、もう一つ困ったことがありました。体育館はトイレが流せず、とても大変でした。蛇口をひねってもトイレを流そうとしても水は出てこないのです。特にトイレは流せないため汚く、お風呂にも入れないのでとても嫌な気持ちになりました。水がでないことで最低限の生活もできなくなり、気持ちも落ちこんでいくのだということに驚きました。だから、あの時は「水を大切に使おう」と強く思いました。けれど今、お風呂の時もシャワーを出しっぱなしにしてしまったり、歯みがきをするときも水を出したままにしてしまったりと水を大切に使おうという意識がだんだん薄れてしまっているということに気が付きました。

また、世界には水不足で苦しんでいる国々も多いと聞きます。水不足は日本で暮らす自分には関係ないと

思っている人が多いと思います。実は、私もそのうちの一人でした。ですが、日本の食料の六割は外国からの輸入に頼っています。外国で水不足が起こると農作物を育てるための水がないため、穀物や野菜も育たなくなります。結果、食料不足がおき、輸入もできなくなります。外国の水不足は日本に大きな影響を与えるのです。

水不足の最大の原因は「人口増加」だそうです。人が急に増えてしまったため、水を消費する量も増えてしまいます。そして、人が増えると食料もたくさん作らなければならないためさらに水が必要になってくるからです。私は、水不足について調べ、初めは関係ないと思っていましたが、他人事にはできないと思いました。

大震災を経験したり、水不足について調べたりするまでは、「水を大切に」とか「節水しなきゃいけない」などと、水に対してあまり深く考えたことはありませんでした。しかし、自分が実際に体験して水はすごく大切だということを実感し、水不足は外国だけではなく、日本や自分自身にも関係のあることなんだということを考え直すことができました。一人一人が『水を大切に使う』ということを意識して暮らしていくことで、水不足は少しは解消されるのではないかと私は思います。

（注）原文のまま浄書しています

佳作（岩手県知事賞）

大切な水

盛岡市立飯岡中学校
二年　稲垣（いながき）　千夏（ちなつ）

「次、お風呂いいよ。」私は今日もいつものように家族に伝えて部屋に戻る。今までそれが、あたり前だと思っていた。

ある日、テレビで毎日お風呂に入れない人、入れても水がにごっていて、あまり衛生的ではない水を浴びている人達がいる事を知った。

私の家の水は、水道水ではない。山の水を炭などでろ過し薬をあまり使わずきれいにした水。その山水を使って生活している。私がその事を知ったのは、小学校の低学年の時だった。それは、矢巾町に住むいとこが家に遊びに来た時に、我が家の水をおいしいと言ってくれたことで、このおいしい水は一体どこから来たのだろうと思ったのがきっかけだった。そして、今までずっと我が家の水はおいしい事が自分の誇りだった。

小学校四年生の時、新庄浄水場へ見学へ行った。そこでは、水をきれいにするために色々な薬を大量に使い、たくさんの過程を経て飲める水へと変えていた。私は、薬などを使っても水をきれいにして飲めるようになるまでには、とても大変なんだなと初めて知った。その時に私の家の水は、あまり薬を使っていない事を思い出し、浄水場でさえ水をきれいにするのが大変なのに、私の祖父や地域の人々は山の水を薬をほとんど使わずきれいにしていることがとても凄い事だと思った。そこで、家の水をきれいにする仕組みを祖父に聞いてみた。それは、山から流れてきた水がタンクに入り、その中にある炭や砂によってろ過される仕組みだった。そして、その炭や砂などは一年に一度、祖父たちが取り替えており、その作業に一日かかり大変だという。

実際にその様子を見たことはないが、浄水場へ行き、大きな機械で水がきれいにされ、飲めるまでにたくさ

んの時間がかかる事を知ってからは、我が家の水も長い時間をかけ、大変な思いをしても、私達においしい山の水を飲ませようと思ってくれている祖父の思いに応えるように我が家の水をもっと大切に使おうと思った。

しかし、その意識は時間が経つにしたがって次第に薄れていき何時しか蛇口を開けっぱなしにして水を使ってしまっていた。

テレビで、汚い水で体を洗っていたり、水を飲んでいる人々を見たことがある。私は、世界ではこんな水を使っている人がいるのだと思い驚いた。そして、改めて水の大切さ、蛇口をひねればきれいな水が出てくることのありがたさを知った。世界の国々の中には、汚れている水を使っている人がいる。それなのに私達は、普通に蛇口を開けっぱなしにしている。せっかくきれいな水が出るのに、もったいない使い方をするのは駄目だと思うし、もっと大切に使わないといけないと思った。

ある日、朝からずっと雨が降っていた。その日の夜、お風呂に入ろうとしたら浴槽のお湯が少し濁っていた。祖父に聞いてみるとろ過しきれなかったのだろうと言っていた。お湯が汚かったから入るのに少し抵抗があったが、水の大切を思い出し入ることにした。このとき、他の国の濁っている水を使っている人たちの気持ちが少し分かった気がした。

あるテレビ番組で、日本人が水に恵まれない地域に井戸を掘る企画があった。たまたまそれを見ていた私は、こういう事をする日本人がいるんだと思った。現地の人々は、とても喜んでいた。私たちにはできないことだけれど、今できることは、今ある水を大切に使うこと、そして、これから先も、使い続けることができるように守っていくことだと思う。水は、無限にあるわけではない。だからこそ、きれいな水を使える事に感謝し大切にして生活していきたい。

（注）原文のまま浄書しています

佳作（岩手県知事賞）

水

花巻市立矢沢中学校
二年　佐藤（さとう）　優樹（ゆうき）

「水をたくさん飲みなさい。」

僕の母は僕によく言う。僕は何故そんなにしつこいほど言われるように水を飲まなければならないのか疑問に思い母にたずねた。そうすると母はこう言った。「水をたくさん飲めば血流がさらさらになり良くなるんだよ」と言った。僕は意外な水の働きにおどろいた。そして母は、こう続けた。「水でも汚い水はいけない。汚れた水は体に悪影響なんだよ。キレイな水があるから僕達は健康でいられるんだよ。」僕は水が体に与える力の大きさに共感した。母はその後こう教えてくれた。「水は今も昔も僕たちになくてはならないんだよ。」その一言で私はある事を思い出した。小学校の高学年の頃、体験授業を受けた。着物に使われる手法は、伝統工芸品にも認定されている。授業を受けている中で気になった事があった。それは、水の使用量だった。何回も布を水で洗い、何ℓものお湯に着色料を混ぜ染色した。僕達が水の使用量に驚いていると先生はこう言った。「水は着物を作る時には絶対必要で、昔は川の水とか使ってたんだよ。」僕はその時、海や川という存在がなければ繋ぐことができなかった伝統や文化があることを知った。

今、僕は感じる。僕が健康で生きることができ、たくさんの日本古来の伝統や文化が受け断がれているのは、日本が水資源が豊富でキレイな水が身近にあるからだ。昔から湖や川は産業を助け、伝統を繋げ、農業を支え僕達の生活を豊かにしてくれた。キレイな水道水は僕達の日常の衛生面を良くし、生活を便利にしてくれた。だが、僕達はそのことを忘れかけているのではないか。キレイな水の素晴らしさを、水資源の大切さを。

砂漠地帯では、雨が降ることは少ない。水が足りず

に生活に困っている人は９億人弱もいる。そう思えば、雨がたくさん降り、海に面し湖や川がたくさんある日本は恵まれている。又、濁った水しか飲めず病気になる人も世界中にはたくさんいる。それに比べ日本はキレイな水道水が身近にある便利な生活を送れている。誰もが簡単に手に入るものではない。だから手が届くものは大切にしなければならない。僕はそう考える。

だが、それができていなかった。昔の川にはゴミが少なかった。しかし今の川はゴミが目立っている。河原に行った。するとコップ、ゴミ、自転車などが捨てられていた。水を入間が汚しているという現実をつきつけられた気がした。だが、その後の光景に僕は見入ってしまった。それは作業着を着た大人達が川に入りゴミを拾っている姿だった。その時僕は感じた。汚しているのは人間、けれども、キレイにできるのも人間なのだと。

僕はキレイな水、水資源の貴重さ、汚すのもキレイにできるのも人間なんだということに気付いた日から、節水、環境整備を心掛けるようになった。水を出しっぱなしにしていたのを止め、河原や公園にゴミが落ちていないかを見て、あれば拾い正しい場所に捨てるようにした。こんな小さなことでも、ずっと続けていれば大きな力になると信じている。

水は命の源であり、生活を支え、伝統を守り続けている。水は血になり肉となり日本人の心となり人の体に存在する。僕が生きているだけで水の力が証明できる。そしてその水の力を必要としているのは動物や植物、この世に生まれてきたもの全てだ。そして、共生する方法を考えることができるのは人間だけだ。だから僕達が水を守り伝えなければいけない。水が人を昔、今、未来へと繋げてくれている。ならば僕達が今から未来へ水の大切さを教え、繋げなければ、僕はそう思う。

今後、伝えていくのは、水の大切さ、ありがたさである。

（注）原文のまま浄書しています

佳作（岩手県知事賞）

世界のために・・・

大船渡市立吉浜中学校
三年　新沼（にいぬま）　麗（れい）

「なんでこんなに汚い水を飲んでいるんだろう。もっと綺麗な水を飲めばいいのに。」

私がいつものように祖父と茶の間でテレビを見ていたときのことだった。私よりずっと幼いたくさんの子どもが水を飲んでいる映像が流れた。私はそれを見て驚いた。子どもたちが飲んでいたのはうすく茶色に濁った水だったからだ。

初めは人事のようだった。なぜなら日本は世界的にも水が綺麗で安全だと思っていたからだ。しかし、日本も完璧に安全とはいえないことが分かった。東日本大震災で起きた福島の原発事故により、有害な物質が流れ続けて水が汚染されたり、工場などからも流れ出ている有害物質により海や川が汚染されたりして、日本も絶対安全とはいえなくなってしまった。

しかし、世界を見ればもっと悲惨なところがある。世界では綺麗な水が飲めないことにより、一日六千人の子どもが亡くなっているそうだ。セネガルでは雨が降るのを待っていたり、ハイチでは下水が垂れ流されたりしており、病原体の発生源の八十％となっている。そのため、水が原因でおよそ八秒に一人が亡くなっているという。また、世界の約七億人が水不足の状態だと言われている。五歳の誕生日を迎えられずに死んでいく子どももたくさんいるのだ。私は、生きたくても生きられない子どもがいたり、綺麗な水を飲みたいはずなのに濁った水を仕方なく飲んでいる子どもがいたりするのはとても酷いことだと思う。私達と同じように水を飲ませてあげたい。どうすれば子どもが死なずに済むか。たくさんの疑問がわいてくる。

それらの疑問を解決するためには、たくさんの人数がいないとできないものがある。たとえば井戸を掘ることだ。井戸を掘るにはたくさんの人と時間が必要に

なってくると思うが、掘り終えた後は、ずっと綺麗な水が飲めるようになるのだ。逆に私達にもできることもあるはずだ。節水をしたり募金をしたりなどが考えられる。これらはすぐにでもできることだ。たった十円でも、その活動でハイチやセネガルの人たちにとってとても大きな励みになるはずだ。個人の小さな積み重ねがいつかは大きな力になると思う。「私には関係のないこと」とは考えずに「自分のこと」のように考えてほしい。

私はまだ中学生で直接かかわることができないし、できることも数少ない。だから、今自分ができることを一生懸命やりたい。中学生として節水をしたり、募金をしたりしてだれかの役に立っていくこともその一つだ。私は、将来は実際に現地に行ってボランティア活動をしてみたいと思っている。ボランティアをしてだれかの役に立ちたい。そして、現地に行って思ったこと、見てきたことをたくさんの人に伝え、水の大切さを知ってほしい。そうすれば世界の子どもたちが綺麗な水を飲めるようになり、命を落とさずに済むのではないだろうか。

みなさんも、水についてもう一度考えてみませんか？

（注）原文のまま浄書しています

佳作（岩手県知事賞）

私たちの生活と水

盛岡市立飯岡中学校
三年　林脇（はやしわき）　結衣（ゆい）

皆さんは鎌津田甚六という人物を知っていますか。甚六は私たちの住むこの地域と、北上川とをつなぐ、鹿妻穴堰を造った人物です。では、なぜ鹿妻穴堰が造られることになったのでしょうか。それば、鹿妻穴堰が造られたその昔、この地域は荒れ果てた土地で作物も育たないようなところだったそうです。それを見かねた南部の殿様が依頼したのが、鉱山師の鎌津田甚六でした。こうして甚六は何日も水を引き入れやすい場所を探し、村人たちに協力してもらいながら二年という長い月日を経て、ようやく鹿妻穴堰を拓くことができたのです。作業は全て手で行っていて、岩がとても固く掘り出せないことや、大雨による洪水で道具が流されるなどとても大変でした。しかし、敵対していた村人たちが道具を持って手伝いに来たことにより、無事に掘り進めることができ、水をめぐる争いもなくなり、この地域は豊かになりました。

今も昔も私たちの生活を大きく支え、豊かにしてくれている水ですが、昔は鹿妻穴堰から引き入れていた水も今はどのようにして私たちのもとへ供給されているんだろうと疑問に思い、理科で学習したことや小学校のときに学んだことをもとに考えてみました。まず、水は主に川から浄水場へ引き入れられ、浄水場で多くの薬品と時間とたくさんの人の力によってきれいにされます。そのきれいになった水は、私たちが普段利用している道路の下を通る上水管を通って私たちのもとへと届けられます。そして使用した水は今度は、道路の下の下水管を通って下水処理場へと運ばれます。その下水はまた多くの薬品と時間とたくさんの人の力によって魚が住めるような水に戻されてから、海や川へと戻されます。私はこの仕組みを知ったとき驚きました。たくさんの人の力と時間とお金がかかることを知

ったからです。改めて水の大切さと、利用しながら自然を守ることの大切さを感じました。そして、これは鹿妻穴堰が拓かれたこととも共通点があると思いました。それは、多くの人々の協力によって供給されているということです。なぜなら、どちらも長い時間がかかっていて、それを支えるたくさんの人々がいるということが分かったからです。もちろん、時代や方法は大きく異なるけれど、それは確かにつながっている点だと私は感じました。それは、現代の日本に生きる、私たちにもいえることだと思います。

東日本大震災から三年という月日が流れ、今、ようやく少しずつ復興へと向かいつつあります。震災当時、ライフラインが寸断され、電気もガスも水道も使えないという過去に一度も経験したことのない、不安な生活を私たちは強いられました。そして、沿岸地域ではそれに追いうちをかけるかのように巨大津波が街を襲いました。

そのとき私たちは、水というものの本当の怖さとありがたみの両方を感じました。水は私たちの生活になくてはならないものです。それと同時に、使い方を誤ると大惨事を引き起こしたり、自然の力によって私たちの生活を奪ったりもします。震災から三年が経った今もなお、水不足が懸念され、各地で節水を呼びかけるコマーシャルやポスターが貼られています。使い方をよく考え、そして節水・節電をすることは、生活を豊かにするだけでなく、私たちにできる唯一の協力なのではないでしょうか。水を使いすぎず、汚しすぎずに使うことは水を利用する上で最も大切なことだと思います。きれいな川や自然を守り、後世へと伝えていくことは私たちの使命であり、責任です。もう一度、自分の生活の仕方や水・電気の使い方をよく考え、より良い未来を私たちみんなでつくっていかなければならないと思います。

佳作（岩手県知事（注）

（注）原文のまま浄書しています

水のある生活

盛岡市立飯岡中学校
三年　藤島（ふじしま）　日和（ひより）

私の家のまわりには、田んぼ一面に水が広がり、田植えの時期に入るとあちこちから忙しく水の流れる音が聞こえてきます。そういう時は決まって今年も夏が来るんだなという気持ちになります。

登下校のときに見る景色。自転車に乗りながらどこからか聞こえてくる水の音や緑のにおい。私の住む飯岡はたくさんの水のある風景に囲まれています。生まれてから、ずっとここで暮らしてきた私にとってあたりまえの景色ですが、自然と心が落ちついてくるような気がします。また、こうして毎日私が元気にすごせているのは、きれいな自然、きれいな水があるからではないかとも思います。

この飯岡にかぎらず、盛岡市内はたくさんの水の風景があります。まず、北上川、雫石川、中津川と市内にはたくさんの川が流れています。夏になるとこの川で遊ぶ子供たちの姿や川で釣りを楽しむ人たちがたくさん見られます。夏ならではの景色だと思います。そこでは、プールなど人工的に作ったものでは感じることができない感覚や新しい発見など自然だからこそ味わえるものを経験することができます。

また毎年秋から冬にかけて、中津川にはサケがのぼってきます。この時期になるとよくニュースでも多く取り上げられます。川にサケがのぼってくることが、そんなに珍しいことなのでしょうか。調べてみて、わかったことは、サケがのぼってくる川は、きれいでなくてはいけないことです。つまり、中津川の水はきれいだということです。市内を流れる川にサケがのぼってくるのは、全国的にも珍しいことなのです。この時期は、中津川の上を通る橋の上から流れる川を見おろしている人をよく見かけます。サケをみつけて、指をさしながら一緒に見ている小さい男の子とそお父さんの姿。そういう光景を目にすると、とてもあたたかい

気持ちになります。

水は私たちにとって飲料水になったり、生活するために使ったりするだけのものではないように思います。自然の中にある水のある風景が私たちの心を楽しませたり和ませたりしてくれます。しかし川や海で水遊びをしたりすることは、昔にくらべるとどんどん少なくなっているのではないでしょうか。

さまざまなところで使用している水は私たちにとってなくてはならないものです。そして水が人にあたえる影響はとても大きいものなのです。

しかしもともと多くあった水の資源も現在では減ってきて問題になっています。その問題をつくったのは私たち人間です。そのためこれからは私たちが努力して変えていかなければいけないのです。少しの努力でもそれが何百人となれば、大きくなっていき全体で心がけることができるようになります。また地球上では干ばつのせいで砂漠化が進んでしまっている地域も多くあるといいます。私のまわりにあるこうした自然の風景で安心できる場が私が大人になっても変わらずありつづけてほしいと思います。そして何年後も何十年たっても残しておきたいです。それぐらい大切なものだと思います。そのためにまず水を作りきれいにするための森林を大切にしなくてはいけないと思います。これらの水を守る活動を広げることもこれからは大切だと思います。水の風景がたくさんあるこの飯岡を、この盛岡市をこれからも守り生活していきたいです。またいつまでも私たちの自慢の地域でありつづけてほしいです。

（注）原文のまま浄書しています